



創刊号

National Institute of Technology, Sendai College

# 仙台高専

URL <http://www.sendai-nct.ac.jp/>

## だより

### CONTENTS

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 2     | 特集記事            |
| 4-5   | 新任教員紹介 / 新任職員紹介 |
| 6-9   | 高専体育大会特集        |
| 10-11 | インターンシップ報告      |
| 12-13 | 校外研修報告 / スポーツ大会 |
| 14-15 | 学生・教職員の声        |
| 16    | 卒業生・修了生より       |
| 17    | 後援会・同窓会より       |
| 18    | 活動状況報告          |
| 19    | キャンパストピックス      |



仙台高等専門学校

# 特集記事

## 本校の取り組む次世代型教育について

校長 内田 龍男



次世代の教育の在り方について、今、盛んに議論され、世界中で改革が進められている。かつて、選ばれたエリートの学生を対象としていた高等教育は、現在、必ずしも意欲や意識が高くない学生も対象とするまでに大衆化した。一方で、教育方法は依然としてエリート教育型が変わっていないために、ついていけない学生への対応に教師も学生も多くの時間を費やしている。

ところでエリートは、教師にとって教育し易いというだけで、必ずしも真の能力の優劣と対応していない。非エリートといわれる学生も、実は高い能力を有しながら、柔軟な理解が不得手で一つ一つのプロセスを完全に納得しなければ次に進めない、あるいは、多面的に理解しようとするために安易には前に進めないだけのことも多い。これらの学生は、教える側が常識と思って、前提条件を明確に示さなかった場合や、論理の流れを飛躍して説明した場合、ついていけないことになる。皮肉なことに、これらの資質や態度は、時として有能な科学者や技術者に必要な資質でもある。また、論理構築の能力はあるが理解が遅いだけの者、その時点では知識が不十分なために理解と論理構築ができない者もいる。これらはいずれも、突き当たった幾つかの壁を越えれば克服できるので、学校では劣等生だったが社会では大きな成果を上げる者も多い。このために、学校の成績は無意味であるという人もいる。

こう考えると、一人一人に適した速度と方法で教育できれば、従来型の講義と比較にならない効果が期待されることが容易に想像できる。言い換えれば、多様な学生に対して、興味や意欲を如何にして引き出し、自ら学ぶ意識をもたせるかが最重要課題であり、これが教師の力の見せ所である。失敗や苦勞を伴うが、教師が努力と工夫をすれば必ずあるレベルまでは到達できると言われている。

最近、これについて多方面の研究が進められ、アクティブラーニング、反転教育、ICT教育などの名で情報が公開され始めている。本校でもk-Skillが開発され、その有効性が示されつつある。さらにこれらに関連して、高専機構は多様な教育に対するガイドラインとしてのコアカリキュラムを明確にした。

このような背景で、本校は高専機構からアクティブラーニングのモデル校に指定され、今後の高専教育の在り方を模索することになった。失敗や困難を恐れず、高専にとって真の教育とは何かを求めて、学生にとっても教師にとっても最大限の効果と効率が生まれる新たな教育手法を構築していければ幸いである。

## モデルコアカリキュラムについて

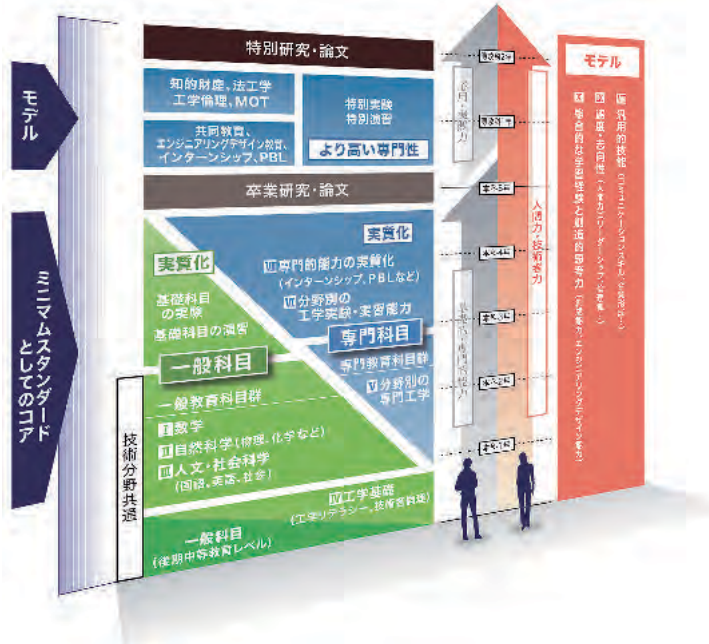
電気システム工学科 教授 櫻庭 弘



国立高等専門学校機構では、平成24年3月に全国高専の教育の基本部分を統一的に示したモデルコアカリキュラムをつくりました。「学生はモデルコアカリキュラムの内容をすべて習得して卒業します」と宣言したことになります。習得したものの全体を卵に例えると、モデルコアカリキュラムは黄身の部分です。黄身にあたる教育内容の品質をきちんと保証することにより、それを支える白身や殻にあたるさらに発展的な教育内容を各校の特色や地域の特色に応じて自由に変更することができるようになりました。さらに、黄身の部分だけとはいえ、こんな品質ですと宣言したからには、それを身につけさせるしっかりとした教育カリキュラムと、学習環境を整えなければなりません。したがって教育内容もさらに見直さなければなりません。アクティブラーニングの導入もその一つです。

モデルコアカリキュラムをつくったことは、高専がさらに進化することを明確に宣言したことにはほかなりません。仙台高専は、全国高専に先駆けてモデルコアカリキュラムに基づいた教育改革を実施していきます。

モデルコアカリキュラムの概念図



# 特集記事

## K-Skillについて

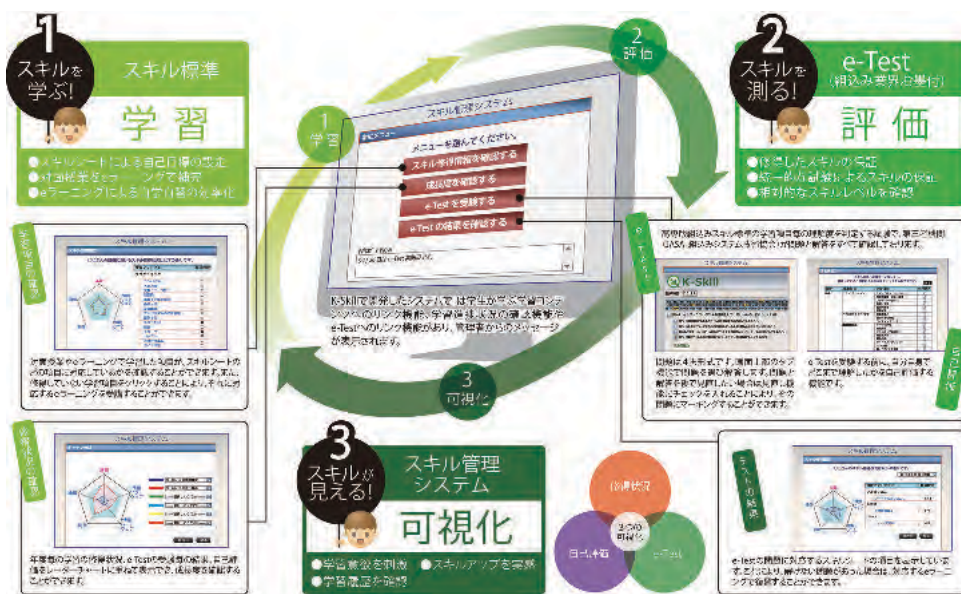
知能エレクトロニクス工学科准教授 與那嶺 尚弘



大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムで選定された「超広域連携に立脚した高専版組込みスキル標準の開発と実践」(K-Skill)は、10高専が連携し、組込み関連科目(電気・電子・情報・制御・通信)の教材やカリキュラムの開発を行い、スキル(知識・技術を応用して使いこなす能力・技能)の可視化を目的とする取組で、平成21年度から23年度に実施しました。現在も20を超える高専と連携して活動を続けています。

K-Skillでは「①学習(対面授業やeラーニングによる学習)」、「②評価(e-Testシステムによる評価)」、「③可視化(スキル管理システムによる可視化)」による学習サイクルを提唱しています。これまでに1,200名を超える全国の学生がe-Testを受験し、定期試験とは異なる評価に、学習意欲が高まる結果を得ています。現在、e-Testシステムを24時間体制で稼働しています。また、2014年8月には新しい試験を2つ公開しました。全国の高専生に良い刺激を与えられれば、と期待しています。

座学のスキルだけではなく、高専生の強みは「手を動かす＝実験の経験が豊富」という点にあります。それをより強くアピールする目的で実験系スキルシートを開発しています。我々は『与えられた実験テーマに対し「実験項目」を考え、「使用器具」を適切に選び・操作し、「測定結果」の妥当性を判断でき、「理論」に基づいて「実験結果」を考察できる学生』を育成しています。そのための枠組み(フレームワーク)や仕組み(システム)として実験系スキルシートを活用し、全国の高専へ広げたいと考えています。



## なぜ今アクティブラーニングか

次世代型教育担当副校長 竹島 久志



アクティブラーニング＝能動的な学習。確かに、「教員による一方的な講義」は多いです。しかし、ほとんどの授業はそれだけではなく、学生自身が演習問題を解いて黒板に回答するなど、少なからず「能動的な学習」が実施されています。また、以前から、実験・実習が多く取り入れたアクティブな授業が展開されています。

では、なぜ今、アクティブラーニングを改めて導入するのでしょうか。その主な理由は2つあります。キーワードは「教育の質の保証」と「21世紀型スキル」です。ここでは紙面の都合、前者について説明します。

「教育の質の保証」とは、「本校で学んだ学生は、〇〇ができる」ことを世間に保障することです。このために国立高専機構では、「モデルコアカリキュラム(試案)」(H24.3)を作成し、その中で高専の学生が身に付けるべき到達目標を「〇〇ができる。」等の表現で示しています。この到達目標を個々の学生が達成するためには、「教員が何を教えたか」ではなく、「学生が何をできるようになったか」を基準として教育を進める必要があります。教員が知識(情報)を一方的に与えても必ずしも「できる」ようにはなりません。個々の学生が自ら能動的に学ぶことで、現有の知識・能力を一段進化させ、はじめて「できる」ようになります。これを実現するための教授方法がアクティブラーニングです。

すなわち、これから始まるアクティブラーニング導入(＝教育改革)は、単に授業を活発にすれば良いというものではなく(これも大切です)、「全ての(個々の)学生を十分に伸ばす」という視点が重要になります。現在、次世代型教育推進室を中心に、これを実現するための準備や試行を行っています。教員研修の実施、各授業へのアクティブラーニングの導入、大規模なカリキュラム改変等を実施していきます。何卒ご協力をお願いいたします。

# 新任教員紹介

総合科学系文科 助教 油座 圭祐



今年度から総合科学系文科の教員に着任いたしました油座圭祐と申します。これまでは定時制高校に勤務する傍ら、東北大学大学院文学研究科で日本思想史を専攻して来ました。

文学研究という言葉からは「文学を研究する」と想像しがちですが、「文学で研究する」と言った方がより実態を捉えたイメージになるかと思います。それでは、文学で何を研究するのか。それは、おそらくこの世の中で最も不可解な存在であるところの「人間」、その本質です。日本思想史という学問では「死」、「カミ」、「信仰」、さらには「妖怪」といった様々なテーマを設定し、それらを歴史的文脈の中で捉え、数多の対話を繰り返すことによって多様な角度からこの「人間」の解明を試みていきます。

講義を始めてからはや三ヶ月が経ちましたが、この短期間に学生の皆さんからは感想等を通じて様々な知的刺激を頂きました。私の講義も皆さんの知的好奇心を幾分かでも刺激出来ていたら幸いであり、今後もそうした互いに刺激を与え合う関係を築いていきたいと考えています。

電気システム工学科 助教 柳生 穂高



本年4月より電気システム工学科に着任いたしました、柳生穂高と申します。出身は千葉県であり、大学入学とともに宮城県に来ました。当初は冬になるたびに寒さに負けて体調を崩していましたが、ここ2、3年でだいぶ宮城の気候に慣れてきました。

私の専門分野は、超伝導です。その中でも、極低温でしか見ることでできない超伝導現象を室温で実現させるための新しい超伝導体の合成や特性の改善をテーマとして研究を行っています。授業や研究指導を通して研究を進めていく上で必要となる知識や技術を伝えていきたいと思っています。

着任してから数ヶ月がたち、高専での仕事や生活にいくらか慣れてきました。元気な学生が多く、楽しく学生生活をすごしているのだと日々感じています。授業、研究、生活等、学生のみなさんの力になれるよう精一杯努力していきますので、どうぞよろしくお願い致します。

カウンセラー 濱中 ミオ



4月から仙台高専学生相談室の常勤カウンセラーとして着任いたしました濱中です。

学生相談室は、十代半ばから二十代前半という人生の大切な時期を仙台高専で過ごす学生の皆さまと、その成長や学びを支える教員や保護者の皆さまのお手伝いをする場所です。

昨年度までは、限られた時間、回数しか開室できなかったため、「必要な時に相談できない。」という声をいただくことも多かったのですが、今年度からは名取キャンパスではカウンセラー3名、広瀬ではカウンセラー2名体制で協力しながらほぼ毎日開室できるようになりました。

ここまでの環境が実現したのは校長先生や学生相談室長、看護師さんをはじめ多くの先生方のご理解とお力添えがあつてのことでした。この場をお借りして感謝申し上げます。

“こころのケア”のための相談室活動が、今後より一層充実したものとなるよう、精進して参りたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

# 新任職員紹介

## 事務部長 根本 直之

4月1日付けで、福井高専から仙台高専へ事務部長として赴任してまいりました。

高専の仕事をしてみて驚いたのは、先生方が熱心に学生と向き合い、非常に丁寧な教育を行っていることです。社会的に高い評価を得ているのは、50年に及ぶ先生方の努力の積み重ねの結果であると実感しています。

近年は、教育・研究の両輪に社会貢献が加わり、さらに校務も増え、先生方はじめ教職員はますます忙しさを増していると思います。事務方として、できる限りのことを行いますので、仙台高専が素晴らしい学校になるよう共に歩んでいきたいと思っています。



## 総務課長 山木 幸一

今年7月1日付けで総務課長に着任しました。これまでは大学での業務運営に携わっておりましたが、大学を離れたのは平成19年に日本学生支援機構(JASSO)に出向して以来、今回が二度目になります。

高専にきて、まず驚いたことは、学生の皆さんから元気よく挨拶をされることでした。あらためて、ここは高等専門学校なんだということを実感するとともに、清々しさを感じています。私自身、初心に戻って仙台高専の業務運営に尽力できるよう努力してまいりたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。



## 学務課長 武内 由美

平成16年3月まで、当時の仙台電波高専学生課教務係長として3年間お世話になりました。その後、八戸高専、東京高専、東北大学、福島大学を経て、なんとなく、また愛子に通う予感がしてましたが、現実になってしまいました(笑)。

当時とは、学校の名称も事務室の場所も変わりましたが、10年経っても先生方はあまり老けていないような気がします。自分も老けたからでしょうか？昔より随分とおとなしくなりましたので、ご安心ください。今も変わらず高専の学生はめんこいですね。これも先生方の熱心な教育の賜です。



## 学生課長 中山 美喜也

本年4月1日付けで学生課長に着任いたしました。その前は、一関高専で総務課長として勤務しており、当時宮城高専から着任していた丹野浩一校長と2年半の間一緒に仕事をしました。採用は、岩手大学であり、業務としては、会計、情報及び総務系が大半で、学生系は今回が初めてです。

不慣れな点が多々ありご迷惑をおかけしますが、仙台高専のさらなる発展のため、微力ではありますが皆さんと協力し取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



## 施設課長 菅野 俊彦

皆様こんにちは、4月1日付けで施設課長として着任いたしました菅野です。今までは、大学勤務でしたので高専は初めてです。大学と比較すると、高専は教員と学生の距離が近く、学生はのびのびと勉強やクラブ活動に専念しているように思われます。

施設課は、主に2つの業務を担当しております。1つ目は、東日本地区の25高専の工事の支援業務です。2つ目は、仙台高専の学内の建物及び設備の維持管理等の業務です。常にライフライン(水、排水、ガス、電気、電話等)が正常に使用できるよう維持管理をしています。あまり目立ちませんが重要な職場です。

最近では、地球温暖化で、環境に配慮した建築設備が求められ、改修時に計画的に更新をしています。電力不足のため、省エネルギー対策として夏季及び冬季においては、仙台高専の全学で節電に取り組んでおります。

また、安全安心の確保のため、建物の耐震化、天井等の落下防止対策にも取り組んでおります。

今後も引き続き、建物及び設備機器等の維持保全に努めて参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



# 高専体育大会結果

## 高専体育大会

7月4日(金)から6日(日)まで(ラグビー競技は10月17日(金)から21日(火)まで)、八戸高専と福島高専が主管校となり、第51回東北地区高等専門学校体育大会が開催された。また、8月中旬から8月下旬(ラグビー競技は2015年1月4日(日)から9日(金)まで)にかけて四国地区(ラグビー競技は神戸高専)が担当となり、第49回全国高等専門学校体育大会が開催され、広瀬キャンパスからは陸上・サッカー・男子バドミントン競技が、名取キャンパスからは陸上・バスケットボール・剣道・水泳・女子バドミントン・柔道競技が出場した。結果は次のとおり(地区大会は上位入賞のみ掲載)。

## 名 取

### ■第51回東北地区高専体育大会 八戸大会

|          |               |                                                 |               |
|----------|---------------|-------------------------------------------------|---------------|
| 陸上競技     | (女子)学校対抗      |                                                 |               |
|          | (男子)110mH     | 加藤 丈博(4PA)                                      | 第2位 優勝 全国大会出場 |
|          | (男子)110mH     | 菅谷 駿(2PE)                                       | 第3位 全国大会出場    |
|          | (女子)100m      | 茂木 みさき(1PA)                                     | 第3位           |
|          | (女子)800m      | 佐藤 愛理奈(2PA)                                     | 第2位 全国大会出場    |
|          | (女子)100mH     | 茂木 みさき(1PA)                                     | 第3位           |
|          | (女子)4×100mリレー | 茂木 みさき(1PA)・安田 志帆海(2PS)・佐藤 愛理奈(2PA)・成田 有梨香(5PS) | 第2位           |
| バスケットボール | (男子)          |                                                 | 優勝 全国大会出場     |
| 剣 道      | (男子)団体戦       |                                                 | 優勝 全国大会出場     |
|          | (男子)個人戦       | 立谷 優羽(5PS)                                      | 優勝 全国大会出場     |
|          | (男子)個人戦       | 佐藤 颯太郎(4PE)                                     | 第2位 全国大会出場    |
| ハンドボール   | (男子)個人戦       | 佐藤 亜由夢(4PS)                                     | 第4位 全国大会出場    |
|          |               |                                                 | 第3位           |

### ■第51回東北地区高専体育大会 福島大会

|        |                 |                                             |            |
|--------|-----------------|---------------------------------------------|------------|
| バレーボール | (男子)            |                                             | 第2位        |
|        | (女子)            |                                             | 第2位        |
| ソフトテニス | (男子)団体戦         |                                             | 第3位        |
| 硬式野球   |                 |                                             | 第2位        |
| サッカー   |                 |                                             | 第3位        |
| 水 泳    | (男子)学校対抗        |                                             | 優勝         |
|        | (男子)自由形100m     | 相澤 和嘉(5PA)                                  | 優勝 全国大会出場  |
|        | (男子)自由形200m     | 速水 伸幸(1PM)                                  | 優勝 全国大会出場  |
|        | (男子)自由形400m     | 速水 伸幸(1PM)                                  | 優勝 全国大会出場  |
|        | (男子)自由形400m     | 井上 達仁(5PS)                                  | 第3位 全国大会出場 |
|        | (男子)自由形800m     | 井上 達仁(5PS)                                  | 優勝 全国大会出場  |
|        | (男子)平泳ぎ200m     | 佐竹 優貴(5PE)                                  | 優勝 全国大会出場  |
|        | (男子)バタフライ100m   | 小原 雅輝(2PE)                                  | 第2位 全国大会出場 |
|        | (男子)バタフライ200m   | 小原 雅輝(2PE)                                  | 優勝 全国大会出場  |
|        | (男子)リレー400m     | 速水 伸幸(1PM)・小原 雅輝(2PE)・山下 泰志(3PM)・相澤 和嘉(5PA) | 優勝 全国大会出場  |
|        | (男子)リレー800m     | 速水 伸幸(1PM)・小原 雅輝(2PE)・井上 達仁(5PS)・相澤 和嘉(5PA) | 優勝         |
|        | (男子)メドレーリレー400m | 速水 伸幸(1PM)・佐竹 優貴(5PE)・小原 雅輝(2PE)・相澤 和嘉(5PA) | 優勝 全国大会出場  |
|        | (女子)背泳ぎ100m     | 白石 真子(4PS)                                  | 第3位        |
|        | (女子)平泳ぎ100m     | 中嶋 詩織(1PS)                                  | 第2位 全国大会出場 |
|        | (女子)団体戦         |                                             | 優勝 全国大会出場  |
| バドミントン | (女子)個人戦シングルス    | 八巻 里紗(5PA)                                  | 第2位 全国大会出場 |
|        | (女子)個人戦シングルス    | 佐々木 葵(5PA)                                  | 第3位        |
|        | (女子)個人戦ダブルス     | 八巻 里紗(5PA)・佐々木 葵(5PA)                       | 優勝 全国大会出場  |
|        | (女子)個人戦ダブルス     | 府金 由樹(5PA)・五十嵐 奈緒(3PS)                      | 第3位        |
|        | (男子)団体戦         |                                             | 優勝 全国大会出場  |
| 柔 道    | (男子)60kg級       | 浜畑 翔(4PE)                                   | 優勝 全国大会出場  |
|        | (男子)60kg級       | 石田 隆寅(1PM)                                  | 第2位 全国大会出場 |
|        | (男子)73kg級       | 高橋 裕貴(5PS)                                  | 優勝 全国大会出場  |
|        | (男子)73kg級       | 土田 大樹(5PE)                                  | 第2位 全国大会出場 |
|        | (男子)90kg級       | 佐々木 豪(5PE)                                  | 優勝 全国大会出場  |

### ■第49回全国高専体育大会

|          |                 |                                             |             |
|----------|-----------------|---------------------------------------------|-------------|
| 陸上競技     | (男子)110mH       | 加藤 丈博(4PA)                                  | 決勝進出        |
|          | (男子)110mH       | 菅谷 駿(2PE)                                   | 予選敗退        |
|          | (女子)800m        | 佐藤 愛理奈(2PA)                                 | 予選敗退        |
| バスケットボール | (男子)            |                                             | 予選リーグ敗退     |
| 剣 道      | (男子)団体戦         |                                             | 予選リーグ敗退     |
|          | (男子)個人戦         | 立谷 優羽(5PS)                                  | 2回戦敗退       |
|          | (男子)個人戦         | 佐藤 颯太郎(4PE)                                 | 2回戦敗退       |
|          | (男子)個人戦         | 佐藤 亜由夢(4PS)                                 | 初戦敗退        |
|          | (男子)自由形100m     | 相澤 和嘉(5PA)                                  | 予選敗退        |
| 水 泳      | (男子)自由形200m     | 速水 伸幸(1PM)                                  | 決勝進出        |
|          | (男子)自由形400m     | 速水 伸幸(1PM)                                  | 第6位(23名中)   |
|          | (男子)自由形400m     | 井上 達仁(5PS)                                  | 第18位(23名中)  |
|          | (男子)自由形800m     | 井上 達仁(5PS)                                  | 第15位(23名中)  |
|          | (男子)平泳ぎ200m     | 佐竹 優貴(5PE)                                  | 予選敗退        |
|          | (男子)バタフライ100m   | 小原 雅輝(2PE)                                  | 予選敗退        |
|          | (男子)バタフライ200m   | 小原 雅輝(2PE)                                  | 第4位         |
|          | (男子)リレー400m     | 速水 伸幸(1PM)・小原 雅輝(2PE)・山下 泰志(3PM)・相澤 和嘉(5PA) | 第7位(15チーム中) |
|          | (男子)メドレーリレー400m | 速水 伸幸(1PM)・佐竹 優貴(5PE)・小原 雅輝(2PE)・相澤 和嘉(5PA) | 第8位(15チーム中) |
|          | (女子)平泳ぎ100m     | 中嶋 詩織(1PS)                                  | 予選敗退        |
|          |                 |                                             |             |

## 名 取

### 第49回全国高専体育大会

|        |              |                          |       |
|--------|--------------|--------------------------|-------|
| バドミントン | (女子)団体戦      |                          | 2回戦敗退 |
|        | (女子)個人戦シングルス | 八巻 里紗(5PA)               | 2回戦敗退 |
|        | (女子)個人戦ダブルス  | 八巻 里紗(5PA)<br>佐々木 葵(5PA) | 初戦敗退  |
| 柔 道    | (男子)団体戦      |                          | 第3位   |
|        | (男子)60kg級    | 浜畑 翔(4PE)                | 初戦敗退  |
|        | (男子)60kg級    | 石田 隆寅(4PM)               | 初戦敗退  |
|        | (男子)73kg級    | 高橋 裕貴(5PS)               | 初戦敗退  |
|        | (男子)73kg級    | 土田 大樹(5PE)               | 2回戦敗退 |
|        | (男子)90kg級    | 佐々木 豪也(5PE)              | 初戦敗退  |



## 広 瀬

### 第51回東北地区高専体育大会 八戸大会

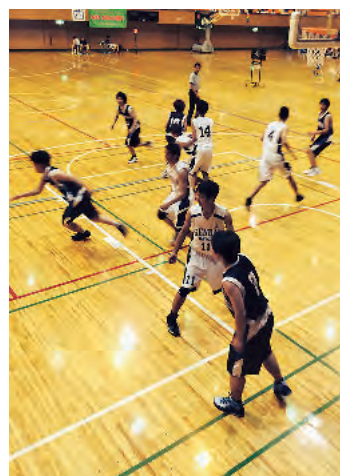
|          |               |                                                  |           |
|----------|---------------|--------------------------------------------------|-----------|
| 陸上競技     | (女子)100m      | 大村 さやか(3IN)                                      | 優勝 全国大会出場 |
|          | (女子)100mH     | 安田 波輝(2IE)                                       | 第3位       |
|          | (女子)走幅跳       | 大村 さやか(3IN)                                      | 優勝 全国大会出場 |
|          | (女子)4×100mリレー | 今野 萌衣(3IE)・大村 さやか(3IN)・<br>安田 波輝(2IE)・鈴木 智千(2IE) | 優勝        |
| バスケットボール | (男子)          |                                                  | 第3位       |
| 卓 球      | (男子)団体戦       |                                                  | 第3位       |
| 剣 道      | (男子)団体戦       |                                                  | 第3位       |

### 第51回東北地区高専体育大会 福島大会

|        |             |                       |           |
|--------|-------------|-----------------------|-----------|
| バレーボール | (女子)        |                       | 第3位       |
| 硬式野球   |             |                       | 第3位       |
| サッカー   |             |                       | 優勝 全国大会出場 |
| バドミントン | (男子)個人戦ダブルス | 菅野 貴晋(5IN)・津田 瑞紀(4IS) | 優勝 全国大会出場 |

### 第49回全国高専体育大会

|        |               |                                                  |             |
|--------|---------------|--------------------------------------------------|-------------|
| 陸上競技   | (女子)100m      | 大村 さやか(3IN)                                      | 第5位         |
|        | (女子)走幅跳       | 大村 さやか(3IN)                                      | 第13位        |
|        | (女子)4×100mリレー | 今野 萌衣(3IE)・大村 さやか(3IN)・<br>安田 波輝(2IE)・鈴木 智千(2IE) | 第6位(オープン競技) |
| サッカー   |               |                                                  | 1回戦敗退       |
| バドミントン | (男子)個人戦ダブルス   | 菅野 貴晋(5IN)・津田 瑞紀(4IS)                            | 第3位         |



# 高専体育大会入賞コメント 名取

## バドミントン部

建築デザイン学科5年 八巻 里紗

5年という月日は私にたくさんのものを残してくれました。

今日までの大会や日常の記憶が昨日のこのように思い出されます。

今年は4年ぶりにやっと勝ち取った団体優勝とダブルス、シングルスで全国大会の地、松山へ。

団体初戦は順調にストレート勝ち。2回戦、5年生の2人がシングルで格上の相手に必死にくらいつく姿を隣で見て、入部当初では考えられないほどの成長を遂げ、逞しく頼りになる存在になってくれたのだと思いました。結果は0-3でしたが、全てを出した全国大会での1勝が後輩たちに何かを残せたのかなと思います。

バドミントン部での5年間は、楽しいことばかりではなく辞めたいと思うことが何度もあったけれど、周りの人たちがいたからこそここまで頑張ることができました。ここで過ごしてきた事実は何にも代えることのできない私の道のりで、きっとこれからこの道の先を歩んでいくのだと思います。

最後に、我儘な部長についてきてくれた後輩。多大なるご迷惑をお掛けした野角先生をはじめとする顧問の先生方。たくさんの支援、指導をしてくださったOBの方々。大変お世話になりました。

本当にありがとうございました！



## 水泳部

電気システム工学科3年 佐竹 優貴

私達、水泳部は東北地区大会を7年ぶりの男子総合優勝という看板を背負い、全国大会に挑みました。結果は個人入賞者2名、リレー2種目入賞という成績を納めました。

しかし、全国の壁は厚く、総合順位は良い結果ではありませんでした。来年は、今年の好成績を支えた下級生がより力をつけて望むので大いに期待しててください。

ここからは、水泳部のみではなく部活をやっている皆さんにアドバイスです。私自身、水泳は高専から始め、辛い練習に耐え、勉強等と両立しながら5年間続け個人種目1位という結果を残せました。今、部活で挫けそうな人、辞めようと思ってる人はとにかく自分に腐らず部活を続けてください。必ず努力は実を結びます。応援ありがとうございました。



## 陸上部

建築デザイン学科4年 加藤 丈博

走る。跳ぶ。投げる。それが陸上競技です。我々は0.01秒、1cmでも記録更新するために日々練習しています。

陸上競技は個人競技と言われていますが、私はそうは思いません。毎日1人で練習し大会に出場し記録を伸ばす、そんなことは私にはできません。練習では立てなくなるまで競い合って走り、大会では声が潰れるまで応援してくれて、自己ベスト更新した時や上位大会出場を決めた時には自分のこのように喜んでくれる。そんなチームメイトがいるからこそ頑張れます。確かに大会は1人で走りますが、そのような事から個人競技ではないと思います。

私たちは毎日練習してきましたが、8月20、21日に高知県宿毛市であった全国高専体育大会には110mHで自分と菅谷、女子800mで佐藤の3名が出場という、予想していた人数より少ない結果になりました。自分は目標としていた決勝進出を決めることができませんでしたが、菅谷と佐藤は練習の成果を存分に発揮したものの、全国のレベルは高く課題の残る結果でした。自分以外の2名はまだ2年生なのでこれからの成長がとても楽しみです。そして、これからも1人1人が目標を達成できるよう、日々努力していく所存であります。



# 高専体育大会入賞コメント 広瀬

## サッカー部

知能エレクトロニクス工学科5年 佐々木 俊樹

サッカー部に入部し最初に思ったことは「勝てる気がしない」だった。そしていつからかサッカー部を勝てるチームに変えることが私の目標となった。4年半ばにキャプテンになってからは何度も心が折れそうになったが、高い意識を持つ後輩たちをみて彼らの為に私ができることは最大限やろうと心に決めた。

今年の第51回東北地区高専体育大会は、優勝しか全国大会に行けないという厳しい試合でした。「走り負けることはない、いつものプレーが出来れば勝てる。」とチームメイトと自分に言い聞かせました。試合が始まって不安は残っていましたが仲間達のプレーは今まで以上に頼もしいもので、なんとか優勝することができました。

後輩が全国大会を経験できたことが何よりも嬉しく思います。今回の経験を活かして、来年はさらに良い成績を残せるよう努力してくれると期待しています。



## 陸上部

情報ネットワーク工学科3年 大村 さやか

怪我のため万全のコンディションとは程遠かった2013年の全国大会。悔しかった。「来年も来よう」。そう誓った昨年の夏。

昨秋には新しく陸上経験者の先生が着任された。本格的な練習が始まった当初はついていくのもままならなかったが、日を追うごとに自分に力がついていくのが感じられた。

そして2014年の夏。100mと走幅跳の2種目で全国大会に出場することができた。しかし、結果は昨年に比べればよかったと言えるが、完全燃焼したとは言えない。ただ、「来年も来よう」を「来年は戦いにいこう」に変えることはできた。それだけでも大きな成果だと思う。

応援してくださった皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に陸上部のみんなへ。2015年の高専体育大会はもうスタートしている。練習を積み重ね、一緒に勝ち上がって、みんなで全国にいこう。



## バドミントン部

情報ネットワーク工学科5年 菅野 貴晋

私は仙台高専に編入生として入学しました。編入後、勉強と部活の両立が難しくとても大変だったことを覚えています。しかし、勉強に関しては、クラスメイトが授業のわからない部分を教えてくれました。そのおかげで部活に専念することができました。

部活では、厳しいメニューを提案しても文句も言わずについてきてくれたチームメイトは、高専と高校の部活動の温度差を感じていた私にとっては心の支えでした。また、顧問の先生や職員、OBの方々にも大変お世話になり、その結果、2年連続東北大会個人戦ダブルス優勝、今年に至っては全国3位にまでたどり着くことができました。ありがとうございました。

後輩も結果を残して行けるように感謝の心を忘れずに志を引き継いで、努力して欲しいと思っています。



# インターンシップ報告 名取

## 「校外実習を通して」

機械システム工学科 4年 桂島 僚一

私はこの度の実習において株式会社IHIさんにお世話になりました。IHIさんは航空エンジンで国内シェア6～7割を担う企業であり、以前から航空事業に興味のあった私にとって最良の機会でした。場所は福島県の相馬事業所、エンジン内中小部品の生産工場とのことで、実習では時間の要する工程に対する作業時間改善を行いました。

実習を通じて感じたことは、限られた時間の中で効率よく仕事をすることの重要性和、個人や企業の信頼に対するその責任の重さ。加えて、チームワークを高めるために挨拶などの基本が重要なことが特に印象深かったです。本実習において勉強、経験させて頂いたことをぜひ今後の進路選択に活かして行きたいと思います。



## 「インターンシップで得たもの」

電気システム工学科 4年 舘内 弘樹

東日本大震災を経験したことやそれに関する報道の影響で、東京電力という企業と原子力発電に対してあまり良いイメージをもっていませんでした。

しかし今回、柏崎刈羽原子力発電所の管理区域内の見学や、安全対策工事現場見学などを通じて東京電力社員の方々の「安全」に対する姿勢、電気という生活にかかせないライフラインを管理しているということに対する誇りを肌で感じる事ができました。

この経験によって原子力発電所を含め東京電力という会社に対するイメージが大きく変わり、同時に自分の中で漠然としていた「仕事」というものに対するイメージをしっかりと固めることができました。



## 「インターンシップに参加して」

マテリアル環境工学科 4年 佐藤 哲平

私は、夏休み期間中に一週間、JX日鉱日石金属株式会社磯原工場のインターンシップに参加することができました。2社目での受け入れとなり、とても心待ちにしていました。配属された部署では、磁性材料の分析業務を体験させていただきました。材料分析は学校でも行いますが、企業では一つ一つの作業を効率良く考えて行わなくてはならず、また、練習ではなく実際の製品の評価をすることになり、慣れない私にとってはとても緊張しました。

しかし、実際に企業で行っている分析業務と授業・実験で学んでいる内容が密接にかかわっていることを実感することができ、有意義なインターンシップを体験することができました。自分の将来を見据えながら、今回の経験を活かして、学校生活を送りたいと思います。



## 「インターンシップで学んだこと」

建築デザイン学科 4年 菊池 亜実

私は8月4日から8月8日までの5日間、清水建設株式会社の梅田町復興公営住宅新築工事作業所という建設現場で、施工管理という別名「現場監督」とも呼ばれるものを体験しました。施工管理とは、建築物を工期内に完成させる上で重要となる工程管理、品質管理、原価管理に加え、常に危険と隣合せの建設現場での安全管理等を行う職種です。今回のインターンシップを通して、私が考えていた建設現場の「きつい」というイメージは大きく変わりました。確かに現場作業は、暑い中での鉄筋組みやコンクリートの打込みなど大変な作業でしたが、その辛さにも増して大きな達成感を得ることができました。建築とは、地図に残り何年も受け継がれていくものです。だからこそ重い責任と同時に大きな遣り甲斐を感じられるのだと思いました。また、お世話になった清水建設の方に、状況判断能力の重要性や失敗しても次に生かすことの大切さを教わりました。働く＝辛いというイメージでしたが、人のために働くというのは素敵なことだと思いました。

短い期間でしたが、学校では経験し得ない多くのことを経験させて頂きとても充実した日々でした。今回のインターンシップで学んだ多くのことを残り少ない学校生活に活かしたいと思います。そして、将来は地図に残る仕事に携わりたいです。建築という道を選んでよかったです。



## 「インターンシップ」

生産システムデザイン工学専攻1年 石田 幹

この度、私は利府町にある(株)ジー・イー・エスという会社に4週間お世話になりました。この会社は顧客から様々な機械の注文を受けて、CADによる設計から組立てまで一貫して行っている会社です。注文されたものを顧客と何度も相談しながら創りあげるの、既成の自社製品というものはほとんどありませんでした。

設計部の方々の一日を体験させて頂き分かったことはたくさんありますが、その中の2つをピックアップします。1つは、学校で習っている数学や物理、材料力学などの「こんな計算使わないだろうな」と思っていたものが普通に使われているということ。もう1つは、部活動での経験が必ず会社で生きてくるということです。

最後に、この会社の営業次長から頂いた言葉を記します。「一番大事なことは、必要とされている仕事に対しての意地・プライドを捨ててどれだけ必死になれるかということ。」(株)ジー・イー・エスさんありがとうございました。



# インターンシップ報告 広瀬

## 「インターンシップの感想」

知能エレクトロニクス工学科4年 三國 裕真

僕はこのインターンシップで東日本放送に行きました。皆さんご存知「ぐりり」で有名なあの放送局です。期間は5日間でした。まず、1、2日目は東日本放送の各部署についての説明がありました。3、4、5日目はスタジオやインタビューのお手伝いをしました。

「高専なのに放送局？」と疑問に思う方もいると思います。僕も最初はそんな思いがあり、インターンに行かないよりはいいかとそんな軽い気持ちで東日本放送にいきました。ですが、僕はこの機会にインターンは知識や技術を学ぶだけでなく社会人としての振る舞いや責任などそういう部分も学ぶ場所なのだと痛感しました。この学んだことを活かせる機会があれば最大限に活かし、自分を磨いていきたいと思います。



## 「テキストマイニングと私の夢」

情報システム工学科4年 吉成 未菜里

大学への編入学を希望しているものの、インターンシップ先は企業にしようと思っていました。しかし最終的には、「テキストマイニング」という言葉に惹かれて豊橋技術科学大学を選びました。

5日間の実習では、統計学的なアプローチによるテキストデータの分析を学びました。特に感銘を受けたのは、文字列の出現頻度に着目した形態素解析です。形態素解析は文法的な観点から行うものだというイメージがあったため、統計学を用いる方法には驚きました。

将来、自然言語処理に関連する研究・開発に携わることが私の以前からの夢です。その夢を叶えるために、残りの学生生活をどう過ごすべきか、このインターンシップが教えてくれたように思います。



## 「インターンシップを終えて」

情報ネットワーク工学科4年 岡田 麻美

今年8月4日から8日の5日間、東北放送株式会社へインターンシップへ行かせて頂きました。私が今回この企業を選んだのは、放送業界に興味があったからでした。

実際の主な実習内容は本社のマスター設備、テレビスタジオなどの見学です。他にも様々な場所を見学させていただきました。

テレビ局は華やかなイメージがありました。しかし実際は重要な情報を発信しているだけに、簡単な仕事ではないのだと思いました。職場の雰囲気はとてもよく、企業の方々も温かい人ばかりでした。そういったところは実際に体験してみないと分からないことですから、貴重な体験になったと思います。この経験を今後の進路選択に活かしたいと思います。



## 「中東インターンシップを終えて」

情報電子システム工学専攻1年 西條 涼平

私は中東のバーレーン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦で6週間、研修を行いました。今回のインターンシップは初めての海外であり、車が右側を走る光景や建物のデザインなど、全てが私にとって新鮮なものでした。中でもサウジアラビアは特にイスラム教を重んじており、日に5回のお祈りの時間には飲食店、スーパーなど全てのお店がお祈りのために閉められるという光景を目にしました。このようなイスラム教に根付いた生活習慣は日本には見ることができません。これを見られたのはとても良い経験になりました。このような機会を与えてくださった横河ミドルイースト&アフリカ様、JGC Gulfインターナショナル様には心より感謝申し上げます。



# 校外研修報告



自分達の将来を真剣に決めなければならないなかで、今回の研修はとても良い経験になりました。これをひとつの材料にして、よく考えて今後の進路を決められたら良いと思います。

機械システム工学科3年 佐々木 達也



5月28日に明治乳業の工場に見学に行き、作業工程や卒業生の先輩方から作業内容などのお話を伺いました。その中でとても印象深かった言葉があります。それは「高専で学んだことに加えて職場に来てから学んだことも多く大事」という言葉です。

マテリアル環境工学科3年 阿部 亮太



知能エレクトロニクス工学科は一日目は国立岩手大学工学部を見学し、将来の自分のために今なにをすべきかを考える日となりました。バス移動の時間や、二日目の小岩井農場と中尊寺の見学を通じて、クラスメートとの距離も縮まり、楽しく充実した研修を過ごすことができました。

知能エレクトロニクス工学科3年 伊藤 満里奈



一日目は登米村田製作所で、ノイズ対策コイルの工場見学を行いました。これから就職活動を行う上で貴重な体験ができました。二日目は秋晴れのなか野外炊飯で焼きそば作りと小岩井農場見学を行いました。クラスの団結力が一段と高まりよい研修を行うことができました。

情報ネットワーク工学科3年 佐々木 祐輔



校外研修で東北電力研究開発センターと東北電機製造株式会社を見学した。特に東北電力研究開発センターでの「送電線への雪害対策」に興味を持った。非常に太く丈夫な電線を伸ばしたり大きく揺らしたりする風雪には改めて自然の脅威を感じた。また説明いただいた雪害対策の技術力にも関心させられた。今回の見学で就職に対する将来像がぼんやりとだが分かったような気がした。この体験を活かして今後の資格の勉強などに力を注いでいきたい。

勿論当然のことですが、この事が一番大事、そのようにひしひしと感じる校外研修となりました。

電気システム工学科3年 一條 裕貴



私たちは校外研修で陸前高田の「リクカフェ」と大船渡の「リアスホール」に行きました。「リクカフェ」では設計者の方から話を伺いました。「リアスホール」ではホールの内部が海を表現していたということが印象に残っています。

建築デザイン学科3年 佐藤 未来



今回私たち情報システム工学科3年は、制御システムセキュリティセンター多賀城支部および岩手青少年交流の家にて研修を行いました。普段とは違う場所での研修は学内だけでは得られない経験であり、とても有意義であったと感じています。

情報システム工学科3年 堀内 遼太

## 研修先メモ

### 建築デザイン学科

リクカフェ  
リアスホール

### 機械システム工学科

東洋ゴム工業(株)  
東北大江工業(株)  
角田宇宙センター

### 知能エレクトロニクス工学科

岩手大学工学部  
岩手山青少年交流の家

### 電気システム工学科

東北電力研究開発センター  
東北電機製造(株)

### 情報システム工学科

制御システムセキュリティセンター  
岩手山青少年交流の家

### 情報ネットワーク工学科

(株)登米村田製作所  
小岩井農場  
岩手山青少年交流の家

# スポーツ大会

## 名取学生会

機械システム工学科2年 鈴木 航

今年のスポーツ大会の競技はサッカー、バスケットボール、バレーボール、卓球の4競技に加え、エキシビションである「のだラリー」、「のだコレ」、「長縄」の3競技。計7競技でした。各競技、各クラスが優勝を目指し奮闘する様はまさにスポーツ『大会』というべきもので、予選の段階から白熱した試合が多々見られました。

今回の優勝賞品は例年の100円券ではなく、クラス援助金に、総合1位15000円、2位10000円、3位5000円。各競技1位5000円、「のだコレ」1位5000円加算するというもの。

優勝したクラスがこちらです。

- 総 合……………電気システム工学科4年
- サッカー……………電気システム工学科4年
- バスケットボール……………電気システム工学科5年
- バレーボール……………建築デザイン学科5年
- 卓 球……………電気システム工学科2年

なんと、卓球では2年生が優勝するという快挙を成し遂げました。

学生それぞれが楽しむことのできた大会だったとは思いますが、運営側としては反省点もありました。ただ楽しただけで終わらせるのではなく、来年に活かせるようにしたいと思います。



## 広瀬学生会

情報システム工学科4年 三浦 拓巳

今年度より全学年が新学科体制となったスポーツ大会。広瀬キャンパスでは新しい試みに挑戦しました。

第一に、前回までの大会では学年別対抗リレーだったものを今大会では学科別選抜縦割りリレーに変更しました。五つの学年がひとつのチームを応援することで学科の繋がりがよりいっそう強いものになったと感じました。

第二に、フットサルの競技場所の変更です。

前回まではフットサルコートで競技を行っていた為、応援に足を運ぶ人が他の種目と比べると少ないことがわかりました。そこで今大会から競技場所をグラウンドに移動することで、競技場所による応援の差を無くすことに成功しました。

今年度は学生に大きな怪我も無く、また、スポーツを通してクラスの結束をより深めることができたと思います。来年度も良いスポーツ大会にできるよう努力を重ねていきます。



# 学生・教職員の声

## 就職・進学内定者からのメッセージ

### 規則正しい生活と部活動のすすめ

建築デザイン学科5年 鈴木 翔太



『願いを込める習慣』、これは自己流の願掛けです。一見無駄な頑張りかもしれませんが、目的を達成するまで、どんな日でも毎日10キロ走りました。『早寝早起き朝ごはん』、まさしく健康面最大の難関です。

面接時には、上記のことがアピールポイントとなり無事に内々定をいただきました。また私は、中学から続けていた部活動を重点的に質問されました。

私は、この就活を通し、平日頃の生活そのものが大切なのだと感じました。

(内定先: 安藤ハザマ)

### 専攻科について

情報電子システム工学専攻2年 桑折 智大



私が高専に入学したのは、ロボットを作りたいという漠然とした理由からでした。実際には数学・電気回路など学ぶことはたくさんあり、レポート作成や厳しい試験に追われました。しかしその困難を乗り越えれば、自分のもつスキルに自信が持てるようになるはず。専攻科では他の学科の授業が加わり、技術者としての視野を広めることができます。進学に向けて勉強する時間も取れ、有意義な2年間を過ごすことができると思います。

## 研究室配属になったの感想

生産システムデザイン工学専攻1年 小林 一貴



私は本科の4年生の時に研究室に配属されました。研究室の活動は先輩方の研究発表を聞かせてもらったり、研究にかかわる英語論文を読むなどから始まりました。4年生のうちは先輩方の研究を聞いて自分も同じことができるのか不安でしたが、先生や先輩方が丁寧に教えてくださり、経験不足ではありましたが自分なりの考察をしながら研究を進められました。専攻科に入ってからはいっしょなテーマで研究を行うことでより深いところまで研究を行っています。

知能エレクトロニクス工学科5年 梅津 千安稀



私は、カメラを開発するエンジニアになることを将来の目標としています。他にプロジェクションマッピングなどで映像系の分野に興味を持ち、もっと学びたいと考え、今の研究室を希望しました。仲間や先輩、先生との交流だけではなく、海外留学生との交流が研究室室内できるのも魅力で、英語の勉強にもなりました。

今後、専攻研究へと発展できるように卒業研究を地道に努力していき、少しでも成果を挙げたいと思っています。

## 新入生より本校へ入学しての感想

建築デザイン学科1年 佐々木 美優



仙台高専に入学してから3ヶ月以上がたちました。この期間、様々な経験をする事ができたと思います。

私は青森県出身です。将来の夢のため、この「建築デザイン学科」に入学することを決めました。最初は家族や友達と離れて寮生活すること、学習のことなど不安ばかりでした。しかし仙台高専に入学して後悔はしていません。自分を成長させることができ、良い仲間と出会え、最高の場所です。これからも技術者を目指し、頑張っていこうと思います。

情報ネットワーク工学科1年 佐藤 杏菜



私が入学して感じたことは、個性豊かな先生が多く、先輩方や友達が明るくて優しいことです。入学前は授業についていけるか不安だったのですが、先生方の研究室に行くと丁寧に教えて下さるし、友達や先輩方が相談に乗ってくれるのでそんな不安はすぐに消えてしまいました。

入学してまだ半年にも満たないですが高専祭など楽しみにしている行事が沢山あります。これから五年間、様々な経験を積んでスーパーエンジニアになりたいです。

# 学生・教職員の声

## 留学生からのメッセージ

機械システム工学科5年 PRIYA SINGH

プリヤシン(インド)



震災後間もない時に迷わず「仙台へ行く」と決めたことが、言葉では言い尽くせないほど素晴らしい日々につながりました。物作り、チームワーク、日本文化・社会など多くのことを学ぶことができ、親が子供の手を取って歩くことを教えるような寛大さで皆様が助けて下さったおかげで、自分の人生をどの様に生きていけば良いかを理解できるようになりました。

出会った全ての方々に心の底から感謝しています。皆様のことを一生忘れません。

情報ネットワーク工学科4年 GANTUMUR AMARZUL

ガントウムルアマールズル(アムラ)(モンゴル国)



この学校に来てから、1年半がたって、日本人の気持ちと学校の様子がやっと分かるようになりました。

部活をやったことがなかった私は、今は2つの部活に入って楽しくやっています。

勉強面では、実験やプログラムを作る授業が一番楽しいです。先生方がしっかり教えてくれるので分からないことなくスムーズに進めることができます。

友達たちは、留学生である私のことをいつも考えてくれるので、もっと日本人と仲良くなったり、授業を頑張っていこうと思います。

## 教職員から教育研究・業務紹介

機械システム工学科 准教授 濱西 伸治



在外研究員として2013年4月1日から1年間、アメリカのStanford大学にて、「新生児の聴覚メカニクス」に関する研究を行ってきました。論文で度々目にする著名な教授陣とのDiscussionの日々は、研究者として夢のような時間!

また、26年間続けてきた剣道を通じて国際交流が出来ればという願いが叶い、多くの現地の剣士と竹刀を交えました。英語での剣道指導に悪戦苦闘しながらも、まさしく貴重な「武者修行」となりました。

情報システム工学科 准教授 高橋 晶子



次世代型教育実践プロジェクトの取り組みが始まり、私も担当の一人として授業改革やICTツールの環境構築などに従事しております。特に、卒業研究・専攻研究の指導では、学生が自ら考え・創造することを通し、「社会で活躍できる能力を修得する」ための教育の実践と情報科学の研究を行っております。このプロジェクトでの業務を通し、これまでの常識に囚われず、積極的に教育改革を行うことが必要であると痛感しております。

学生課教務係 佐々木 亜美



八戸高専から仙台高専名取キャンパスへ高専間異動をしてきました。八戸高専では、教務を3年、寮務を2年と主に学生課で勤務してきました。仙台高専でも再度教務係ということで、今は数年前を思い出しながら仕事をしています。

業務内容としては、窓口対応の他、教科書・シラバス・時間割などを担当しますので、どうぞよろしくお願い致します。

教育研究技術支援室 笈口 誠志



私が所属する教育研究技術支援室は、教育及び研究に対する技術支援を目的とし、私を含め8名の技術職員が在籍しています。主な仕事としては、実験・実習や卒業研究における学生への技術指導、教員の研究に対する技術支援、ロボットコンテスト・プログラムコンテストなどへの技術協力、校内ネットワークや教育用計算機システムの保守管理などを行っています。また、地域貢献として小中学生を対象に出前授業の企画実施なども行っています。

# 卒業生・修了生より

東北大学大学院工学研究科 酒井 紀元

私は平成25年度に仙台高専専攻科を修了し、東北大学大学院工学研究科に入学しました。

受験方式は推薦入学を受験し、受験の内容は小論文と面接でした。小論文は受験する専攻などにより内容が変わると思うので過去に同じ専攻を受験した先輩にコンタクトをとることができるなら連絡した方が良いと思います。面接は研究内容についてと入りたい研究室のことについて聞かれると思うので、事前に研究室見学をしておくことをお勧めします。

また、今年度から東北大学の推薦入学で高専卒が取り入れられたそうなので日頃の授業や試験勉強、研究活動をしっかりやった方が良いと思います。

大学院での研究は研究室によっても進め方が異なるので自分のやりたいことが行えるかしっかり教授と話し合い入学することをお勧めします。私は現在のところ学会発表を目標に日々研究活動に取り組んでいます。周りの学生はとても優秀なので刺激を受け努力しています。高専生は大学側から見て評価が高く、内部生の間で高専生が来るとなると焦るそうです。入学後も気を抜かず努力すれば成果を出せると思うので研究を続けたいと思うのであればぜひ大学院に行くことをお勧めします。

株式会社 フィックスターズ 遠藤 靖典

4月からメーカー様と協力し、次世代ストレージ製品開発の最前線で仕事をしています。半年が経ち、だいぶ仕事を任せてもらえるようになりましたが、勉強不足を感じる事が多く、学生生活では失敗してしまったと反省しています。

さて、私とこの仕事との出会いはほんの偶然でした。Webで偶然見つけて玉砕覚悟で応募したところ、縁があって仕事を頂くことができました。

皆さんもいいチャンスに恵まれることを願っていますが、「チャンスは備えあるところに訪れる」との言葉通り、掴み取れるかどうかは頑張り次第です。ぜひ、私のような失敗をしないよう、そしてチャンスを掴み自分の物にできるよう、精一杯学生時代を過ごして欲しいと切に願います。



株式会社 富士通ゼネラル 久松 桐子

私は2013年度に情報デザイン学科を卒業しましたが、当時5年生になっても就職か進学か悩んでいました。成績も特別良いわけではないし、やりたい仕事も見つけれなかったからです。

高専からの就職となると多くの人が学校推薦だと思っています。所属の学科ごとに募集職種の偏りがあったり、業種がある程度かたまっています。その中で自分にあう仕事を探すのは大変だし不安だと感じる人もいますが、実際に働いてみるとまったく違った考え方を持つことができたりします。

私が就職活動と働く上で大事だと感じたことは、自分から視野を狭めず可能性を信じ適度に頑張る、ということです。働くということはもちろん大変ですが、それと同時に今まで知らなかった大きなやりがいというものを感じることができました。



国立大学法人豊橋技術科学大学情報・知能工学課程3年 山下 峻

皆さん初めまして。

私は昨年度に仙台高専情報工学科を卒業し、今年度から愛知県の豊橋技術科学大学(技科大)に編入学しました。技科大でも情報系の学科に進み、他の高専出身の友人と一緒に情報工学やプログラミングなどの勉強に励んでいます。また、サークル(ボランティア、DTM)にも所属しており、趣味の合う友人・先輩・後輩と楽しい時間を過ごしています。

仙台高専に在学中の皆さんにおかれましては、勉強や課題、研究などで忙しい毎日を送っていることと思います。挫けそうになることもあるかと思いますが、そんな時こそ周りの友達や先生方を頼り、一緒に壁を乗り越えていってほしいです。皆さんのご活躍をお祈りしています。



# 後援会・同窓会より

## 後援会長よりご挨拶

### 「さらなる進化を目指して」

仙台高専後援会 会長 伊藤 智



「仙台高専だより」創刊号発行おめでとうございます。仙台高専としてスタートして5年という節目に、新たな一歩が踏み出した事に大いなる喜びを感じます。

私は、2010年4月に子どもが入学しました。その時は恥ずかしながら仙台高専として1期生の入学式であるとは全く意識していませんでした。その後、後援会に関わることで、仙台高専が立ち上がるまでの経緯を知るにつれ今まで諸先輩が築いてきた歴史の重みと共に、これからの仙台高専に対する高い期待を感じとることができました。時代の要請・産業界の要請に沿ったこととはいえ、宮城工業高専と仙台電波高専の違った二つの組織の統合による課題は大変なものであったと思います。

保護者の組織である後援会は、名取キャンパスと広瀬キャンパスの別組織の活動となっています。しかし昨年2013年10月に行われた50周年記念事業での祝賀会を契機に、それぞれの後援会の情報交換等もようやくスタートしたばかりです。

仙台高専後援会も「進化する高専」のサポート役として、皆様のご指導ご支援を仰ぎながら進化していきたいと思っています。

## 同窓会長よりご挨拶

### 「高専生に求められるもの(高専時代を振り返って)」

仙台高専同窓会長 大江 章



両キャンパスの統合広報誌「仙台高専だより」の創刊号の発刊、誠におめでとうございます。同窓生を代表しまして心よりお祝い申し上げます。本日は同窓会長でなく一人の先輩として後輩にメッセージを贈ります。

それは、卒業して36年が経過し社会でも責任あるポジションから高専生に求められるものは何かを考えてみると「平均となって埋もれないでほしい。」ということです。

- ・世の平均は先ず進学校に入って、それから将来を考える。
- ・高専生は自分の進路・将来を考えてから、目標に向かう。

そこに高専生の個性、逆に言うと求められるものがあると思っています。今、振り返ってみるとガラスのように割れやすい十代半ばから大人に向かうまでの5年間、人間性豊かなエンジニアとなる黎明期、そして友と語り合った5年間、とても重要な時期を仙台高専キャンパスで過ごしたことになります。

この5年間平均で過ごすか、志をもって過ごすかで大きく将来が変わります。大学受験で伸びたゴム紐にならずに社会に出てから伸びるのが高専生です。

フランスの細菌学者パスツールの言葉に「Chance favors the prepared mind.」とあります。「着想をもった志からチャンスが生まれる」です。せっかく頂いた高専時代、我武者羅な5年間、目標に向う5年間、人それぞれですが、埋もれず志と着想をもってほしいという先輩からのメッセージです。

最後になりましたが、来年度スーパー高専完成年度で「一年生」、益々母校の発展を強く祈念致しまして挨拶にかえさせていただきます。

# 活動状況報告

## 国際交流

国際交流委員会委員長 (名取:教授 本郷 哲 広瀬:教授 藤木なほみ)

これからますます進展する科学技術のグローバル化をにらんで、仙台高専は、国際交流にも大いに力を注いでいます。以下に、海外協定校からの研修生の受入について紹介します。

広瀬キャンパスでは、今年度も4月初めから3か月間、フランス北部のリール、ロンス、カレーのIUT(技術短期大学)から4名を、また、4月中旬から6週間、タイのキングモンクット工科大ラカバン校から12名を迎えました。さらに、広瀬・名取の各キャンパスが、フィンランドのトゥルク応用科学大学から、各3名を3ヶ月間迎えるなど、学校全体が国際色豊かな雰囲気になりました。

海外研修生は各自が専門分野に近い先生達の研究室に配属されて、短期プロジェクトに取り組みます。この時期の海外研修生の受け入れは、ほぼ恒例化して学内にも浸透し、皆がごく自然に受け止めているようです。多くの本校学生が歓迎会で活発に会話する姿に、学生の自然な国際化の高まりも感じます。桜の時期を初めとして学生達の交流は学内にとどまらず、花見、松島ツアー、山寺ツアー、青葉祭り見学、蔵王ツアーなどと多種多様な広がりをみせていました。また、広瀬キャンパスでは、タイの学生達が例年開催してくれるタイフードパーティが、学生や教職員の多くが楽しみにしている恒例イベントになりました。名取キャンパスでも、フィンランド語講座とその後のフィンランド料理パーティが行われました。

国際交流委員会では、なるべく多くの学生が触れ合える機会を作ろうと、低学年の学生達も巻き込んだ国際交流イベントも企画しています。皆さんの積極的な活動を期待しています。



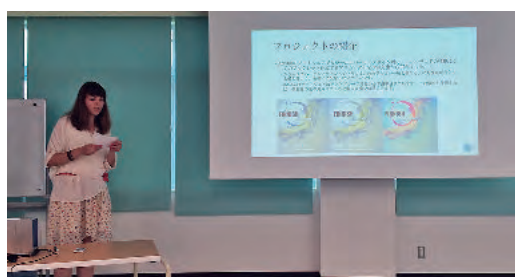
茶道体験



タイフードパーティ



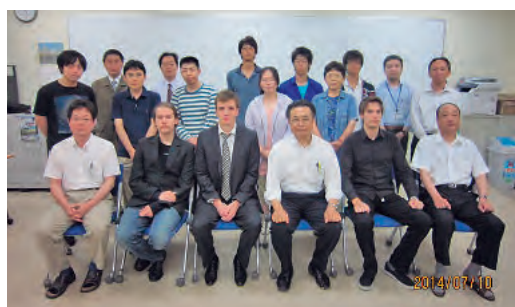
松島ツアー



研究発表



交流のひととき



最終発表を終えて(広瀬キャンパス)



最終発表を終えて(名取キャンパス)

# キャンパストピックス

## 名 取

### グループ学習ができるようになりました～名取キャンパス新図書館

名取キャンパス図書館長(総合科学系文科 教授) 岡崎 久美子

この4月に図書館が新しくなりました。明るく開放的で、居心地のよい空間ができましたので、どうぞいらしてください。

お勧めは、新しいコンセプトで作られた「グループ学習スペース」です。ここでは話し合いができるコーナーです。机とホワイトボードをパズルのピースのように自由にアレンジして、楽しく使ってください。となりのインターネットも利用でき、たくさんの本や雑誌もすぐに参照でき、グループ発表の練習にも便利です。一人で静かに集中したいときには、2階がいいでしょう。リフレッシュスペースでは飲み物が飲めますし、コミュニケーションスペースはサンルームのような雰囲気です。

図書館はいろいろなことができる場です。勉強のことを聞きたいときには、ぜひ図書館スタッフや専攻科学生補助スタッフに相談してください。ほっと一息つきたいとき、友達と待ち合わせをしたいときにもどうぞ。みなさんの目的に合わせて使ってください。

また、図書館は広い世界につながっています。広瀬キャンパスの本を借りたり、電子ジャーナルにアクセスしたりできます。ブックハンティングや講習会、感想文コンクールなどのイベントを活用し、図書館を使いこなしてください。

最後になりましたが、新図書館は多くの方々の長年にわたるご尽力により実現しました。ここに記して心より感謝申し上げます。



新図書館正面



グループ学習スペースで教え合いをする学生たち

## 広 瀬

### キャンパス敷地内の農園整備について

ICT先端開発センター 教授 千葉 慎二

仙台高専では農業の仕事の効率化、農業による地域コミュニティの活性化にICT(※1)を活用するための研究を行っています。このたび、地域にお住まいの方や企業の皆様と明日の農業について考え活動する場として、キャンパス敷地内に農園を整備しました。

農園では平成26年4月から野菜の栽培を開始し、6月には収穫体験イベントを開催して地域の皆さんと収穫の喜びを分かち合いました。イベントにはお年寄りから小さなお子さんまで参加していただき、農業の持つ世代を超えたコミュニティ活性化の可能性を改めて感じました。農園の管理運営は東北スマートアグリカルチャー研究会(※2)と連携して進めており、地域の皆さんが楽しく野菜作りなどを続けていける仕組みや、農業従事者向けのICT活用システムの共同研究を行っています。

今後は地域住民、企業、高専が連携した活動をより積極的に行ってまいりますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

※1 ICTとは、コンピュータやインターネットを活用するための技術のことです。

※2 東北スマートアグリカルチャー研究会とは、地元企業が中心となってICT農業の普及活動に取り組んでいる研究会です。



農業用センサを設置した農園



収穫体験の様子

# 研究室案内

## 「流体力学研究室」

名取キャンパス 機械システム工学科 准教授 永弘 進一郎

機械システム工学科の流体力学研究室は、現在2名の専攻科生、6名の5年生をメンバーに擁し日々研究に勤しんでいます。新学科への移行に伴って、実験室にはPIV撮影の出来る回流式の風洞や、シュリーレン撮影装置などが新たに導入されました。

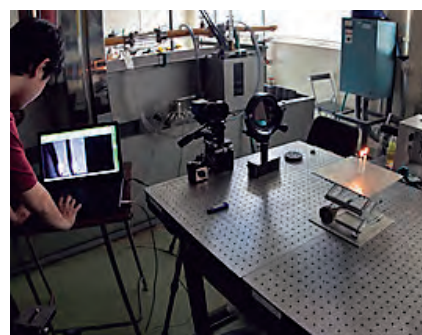
流体力学は、アルキメデスまで遡るほどのながい歴史のある学問です。その一方、現代でも新しい研究対象の尽きない「古くて新しい」学問と言われます。我々の研究室では、身近なものに焦点を当て、その動きや流れについて新しい知見を得ることを目標として研究を行っています。2名の専攻科生は「旗のはためき」と「縦笛の発音機構」を研究しています。また、5年生は水面を走るトカゲの足の運動を解析することを目標に実験の準備中です。それら学生の研究の指導をする傍らに、教員の永弘は水とき片栗粉の実験とシミュレーションを行っています。



風洞の流れのPIV撮影を行う専攻科生



研修室セミナーの様子



シュリーレン撮影をテストする専攻科生

## 教育研究支援基金事務室からのお知らせ

### 仙台高等専門学校教育研究支援基金について

「仙台高等専門学校教育研究支援基金」は、①教育・研究の推進等、②学生への奨学金等、③産学連携・地域貢献、④国際交流活動等、⑤キャンパスの環境整備等、⑥その他基金の目的達成に必要な支援等のために活用させていただいています。

本校は、「仙台高等専門学校教育研究支援基金」を生かして更なる向上を目指して参ります。今後とも、皆様のご理解と格段のご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。ご寄附の方法は本学ホームページに詳細を掲載しております。ご不明な点等については遠慮なく、お問い合わせ願います。

「仙台高等専門学校教育研究支援基金」についての問い合わせ先

仙台高等専門学校教育研究支援基金事務室(総務課総務係)

TEL:022-391-5508

E-mail:kikin@sendai-nct.ac.jp

## 編集 後記

ここに「仙台高専だより」の創刊号を発行致します。平成21年10月1日に高度化再編で旧宮城高専と旧仙台電波高専が統合しましたが、学校だよりとしての広報誌は、統合後も昨年度まで、各キャンパスがそれぞれ「愛島通信」と「キャンパス広瀬」を発行してきました。それらは統合前の長い歴史をもつ各編集方針を引き継いでいました。昨年度から、学校だよりを一つに統合するために、広報委員会で広報誌作成部会を立ち上げて議論を重ねました。新しい「仙台高専だより」の編集方針は、「愛島通信」と「キャンパス広瀬」のそれぞれの魅力を踏襲し、資料的価値のある記事とトピックス的な記事で構成することです。年に2回発行の予定です。(編集委員:竹茂 求)

仙台高専だより【創刊号】 平成26年(2014年)10月 発行:仙台高等専門学校

〒989-3128 仙台市青葉区愛子中央四丁目16番1号

電話:022-391-5513(総務課情報企画係) ホームページ <http://sendai-nct.ac.jp/>